

第25期・第7回 臨床医学委員会 放射線・臨床検査・病理分科会 議事要旨

日 時：令和5年8月31日（木）14:00～14:45

場 所：オンライン会議

出 席（16名）：松田道行、相田典子、井上優介、遠藤啓吾、岡沢秀彦、神谷研二、定藤規弘、
多湖正夫、玉木長良、中山智祥、増田しのぶ、安井 弥、矢富 裕、山下俊一、
山田俊幸、米倉義晴

欠 席（8名）：青木茂樹、大友 邦、金井弥栄、富樫かおり、橋本優子、真鍋俊明、三上芳喜、
山田章吾

（名簿順）

議 題

（1）第25期第6回分科会議事要旨の確認について

井上委員長より第25期第6回分科会議事要旨の確認があり、承認された。

（2）放射線関係の課題について

井上委員長から見解案「医療従事者の職業被ばくに係る放射線管理の改善に向けて」の状況が説明された。令和4年12月23日に事務局に提出し、臨床医学委員会及び第2部の査読を経て、本日の科学的助言等対応委員会の承認の連絡を受けたとのことであった。今期からの手続き変更により、提出から承認までに時間を要したと思われる。発出後の具現化に向けた取り組みへの協力が要請された。

（3）臨床検査関係の課題について

山田俊幸幹事から、課題としてタスクシフト・タスクシェアやがんゲノム医療の精度保証に関する事項を検討していることが説明された。相田委員よりタスクシフトに関する日本医学放射線学会の取り組みが紹介され、放射線科医と診療放射線技師の協力関係は良好とのことであった。増田副委員長から病理解剖の介助に関する事項やがんゲノム医療についての病理領域での取り組みが説明された。

（4）病理関係の課題について

増田副委員長から、病理ワーキンググループの活動について報告された。西谷陽子先生から法医学解剖についてお話をいただいたとのことで、病理の領域にとどまらずに広い関係者とともに解剖の課題について検討していくことが説明された。

（5）第26期に向けた意見交換

松田世話人から、分科会に関する日本学術会議の方針について説明された。分科会の役割を明確化することが求められているが、本分科会は見解等を発出することを目指して着実に活動しており、問題ないと思われるとのことであった。分科会の活動内容は学会で代替できないものが求められることも確認された。26期も本分科会の設置を申請し、見解等を発出して具現化を目指す方針が合意された。